

4章 追加調査結果 報告

- (1) 「話すこと」の調査に係る事前研修調査結果 報告・・・98**
- (2) 「話すこと」の調査に係る検収結果 報告・・・111**
- (3) 「書くこと」の調査に係る検収結果 報告・・・126**
- (4) 「話すこと」の調査に係る実施運営調査結果 報告・・・136**

(1) 「話すこと」の調査に係る事前研修調査結果 報告

1. H28 年度「話すこと」事前研修調査の目的・調査対象

■ 調査の目的

- 「話すこと」の調査実施前に、採点の事前研修を目的として提供した事前準備資材により、①事前準備の取組状況(「事前準備に関するアンケート」)、②実施校の採点担当者に実施方法や採点基準が理解され、統一基準に基づいた採点が行われていたかどうか(「事前研修におけるトライアル採点に関する調査」)について検証行った。
- 今後の英語力調査等の実施に向けて、事前準備資材・運営上の課題を探る。

■ 調査の対象・概要

- 対象者：全国の実施対象校 579 校の採点担当者（英語担当教員）
- 調査の概要：
 - ・英語力調査の実施校に、実施方法・採点基準を解説した「研修用 DVD」「研修用 DVD 付属冊子」を調査実施前に郵送配布。
 - ・調査対象校採点担当者が、「研修用 DVD」に登場する生徒役による解答例を基に「トライアル採点課題」に取り組み、Web 画面上で「トライアル採点課題 採点結果」に採点結果を入力・送信。
 - ・続けて、上記 Web 画面上からリンク先に飛び「採点例」をダウンロード後、「事前準備に関するアンケート」に入力・送信。
- 調査実施時期：
 - ・「研修用 DVD」「研修用 DVD 付属冊子」配布開始：6 月 20 日（月）
 - ・「トライアル採点課題 採点結果」「事前準備に関するアンケート」
Web 回答受付期間：6 月 16 日～8 月 15 日

■ 調査の回答者数

- 「トライアル採点課題 採点結果」：1,113 名
- 「事前準備に関するアンケート」：797 名（「トライアル採点課題 採点結果」入力者の 71.7%が回答）

2. トライアル採点課題 問題とスクリプト

■Part A

Part A 問題

～音読～

When is your birthday? My birthday is on February 2nd. Takashi is my brother, and his birthday is the day after mine. We have a birthday party together every year.

試験官用スクリプト

Now please read it aloud.

■Part B

Part B 問題

Question No.1 Picture A



Question No.2 Picture B



Question No.3

試験官用スクリプト

【Part B ～ 即興を前提とするやりとり～】
Question No.1:

Please look at Picture A.
Tell me about the picture.

Question No.2:
Please look at Picture B.
What is the man doing?

Question No.3:
Which color do you like the best?
Why?

■Part C

Please tell me about the happiest day of your life.

【Part C ～ ある程度準備をした上で話すこと～】

Let's start Part C. Here is the last question.

Please tell me about the happiest day of your life.

You will have one minute to think about your answer.

Then, you will have one minute to speak.

3. トライアル採点課題 解答者のプロフィール

○「トライアル採点課題」では下記の6名の生徒役の解答を採点した。

解答者	プロフィール
1人目	Part Aでは「バースデー」等カタカナ読み、随所で詰まってしまう。Part Bでは、「キャット」など単語のみ解答。Part Cでは文を構成立てて話すことができない。
2人目	Part Aは明瞭に音読。Part B, Part Cでは関係副詞も使いこなし理由も含め完全な文で解答。
3人目	Part Aはやや日本語発音もあるものの明瞭で自然な英語で音読。Part B, Cも接続詞を用いた短い文であるものの、正しい英語で理由も含め解答。
4人目	Part Aは「フェブラリー」等カタカナ読みで自信がなさそうに話す。Part Bでは理由を解答できない。Part Cでは時制など文法の誤りがある。
5人目	Part Aはカタカナ読み、読み直しがある。Part Bは3問目で理由を解答できていない。Part Cはたどたどしいが理由も含めて解答。
6人目	Part Aは全体的にカタカナ読みで抑揚やリズムがない音読。Part Bは1問のみ解答。Part Cは途中で沈黙してしまう。

4. 事前研修におけるトライアル採点に関する調査結果

■解答例・スコア別 解答者の割合

- 「研修用 DVD」内の生徒 6 人分の「トライアル採点課題」の採点結果が一致しなかった点について、生徒役 1 人目～6 人目別に確認。正答スコアが 2 点の場合が多い中位レベルの 4 人目、5 人目で一致しなかった点がみられた。特に、Part C 問題の文法、表現の観点において、正答が一致していない。
- 正答スコアが上位レベル(3 点)、下位レベル(0 点、1 点)に設定された生徒の 1 人目、2 人目、3 人目、6 人目では不一致が少なかった。
- 全体的に正答より低めのスコアを採点する傾向が見られた。

※色つきセルは正答スコア

※赤枠は正答でないスコアで 50%以上の場合

	Score	Part A 音読	Part B 内容	Part B 文法、表現	Part C 内容、構成	Part C 文法、表現
1 人目	0	7%	14%	26%	13%	21%
	1	91%	79%	71%	82%	75%
	2	1%	5%	2%	4%	3%
	3	0%	1%	1%	1%	1%
2 人目	0	0%	0%	0%	1%	0%
	1	2%	1%	0%	2%	3%
	2	98%	12%	20%	34%	39%
	3	0%	87%	80%	63%	58%
3 人目	0	0%	0%	0%	1%	1%
	1	14%	0%	1%	1%	1%
	2	85%	4%	9%	8%	27%
	3	1%	95%	91%	91%	71%
4 人目	0	3%	1%	2%	9%	7%
	1	91%	23%	30%	45%	55%
	2	5%	69%	57%	44%	37%
	3	1%	7%	11%	3%	1%
5 人目	0	0%	1%	3%	8%	10%
	1	73%	51%	48%	67%	68%
	2	27%	45%	43%	24%	20%
	3	0%	4%	5%	2%	1%
6 人目	0	90%	95%	96%	92%	92%
	1	8%	4%	2%	3%	7%
	2	1%	1%	1%	1%	1%
	3	0%	1%	1%	0%	0%

正答
2点
を1点、
0点とし
て78%
が採点

【参考】正答との不一致率が最も大きかった、5人目のPartC 回答例:

I win tennis ...so, I am champion... I am very happy.

(自分の言葉で十数語以上は話していて、動詞winの時制など文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかるので、3点満点中の2点)

5. トライアル採点課題 採点基準と配点

■採点基準による振り返り

- 前ページの結果より一致していない件数が多かった「Part C 文法、表現」で正答スコアが2点の場合に1点にしてしまうケースが多かった。採点基準において、どの程度の誤りで1点、又は2点をつけるかの判断が難しかったと考えられる。

	Part A：音読	Part B：即興を前提とするやりとり	Part C：ある程度の準備をした上で話すこと		
	音読の評価	内容の評価	文法、表現の評価	内容、構成の評価	文法、表現の評価
3点		相手の発話に対応した適切な内容で、すべてに回答できている	適切に回答できていて、適切な文法や表現を用いて話している。誤りがあっても理解には影響しない	与えられた質問に対応した内容となっていて、論理展開がわかりやすい構成となっている	自分の言葉で十数語以上は話して、適切な文法や表現を用いている。誤りがあっても理解には影響しない
2点	明瞭で自然な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話せている	相手の発話に対応した適切な内容で、おおよそ回答できている	ほぼ適切に回答できていて、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる	与えられた質問に対応した内容となっていて、単純な要素を関連づけて述べている	自分の言葉で十数語以上は話して、 文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる
1点	母語アクセントが残っていたり、発音ミスも時にあるが、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話せている	相手の発話に対応した適切な内容で回答できているのは半分以下である	時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使えていて、伝えたい内容はだいたいわかる	与えられた質問に対応した内容となっているが、単純な要素を並べ立てている	自分の言葉で十数語以上は話して、 時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使えていて、伝えたい内容はだいたいわかる
0点	適切に発音できる内容は限定的で、聞き手が理解するのに困難が伴う	相手の発話に対応した適切な内容でほとんど回答できない	使える文法や表現は限定的である、あるいは、適切な内容でほとんど回答することができない	与えられた質問に対応した内容になっていない、あるいは内容が量的にほとんどないか断片的である	使える文法や表現は限定的である、あるいは自分の言葉で話せた内容が十数語に満たない

判断が難しかった点

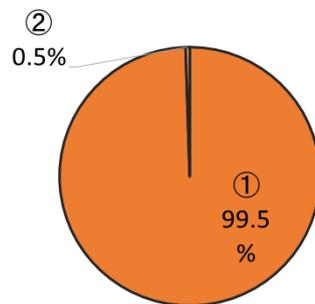
6. 採点者の属性

■採点者の担当教科

- 「外国語（英語）科教員」が、99.5%。
- 「外国語（英語）科教員」以外では数学科2名、美術科1名、未回答1名。

問 ご担当の教科は、次のうちのどれにあてはまりますか。

①外国語（英語）科 ②外国語（英語）科以外



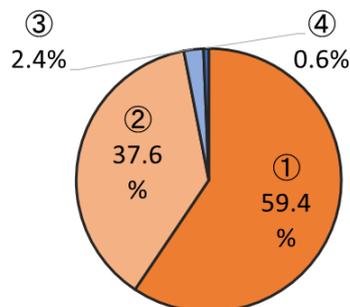
7. 事前準備のわかりやすさ・実施時期

■事前準備のわかりやすさ

- 実施準備で調査の実施手順がわかりやすかった（選択肢①②合計）と答えた回答者は、97%。理由は「DVD や冊子に細かく説明されていたため」が多い。
- わかりやすいと思わなかった（選択肢③④合計）が3%。理由は「資料が多すぎる」が多い。

問 事前準備で調査の実施手順はわかりましたか。

①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない

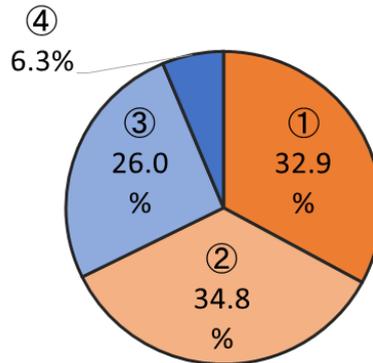


■事前準備の取り組み時期

- 回答者の 67.7%がスピーキングテスト実施前 6 日以内に取り組んだ (選択肢①②合計)。

問 事前準備はSpeaking Test本番実施日のどのくらい前に取り組みましたか。

①本番実施当日～2日前 ②3～6日前 ③7～13日前 ④14日前以前



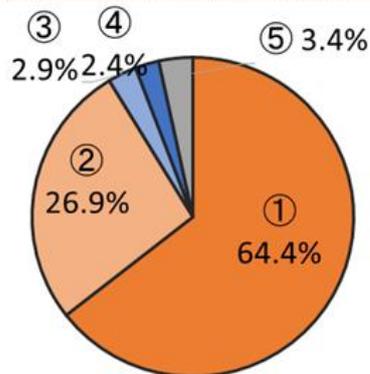
8. 「トライアル採点課題」について

■1人分の採点にかかった時間

- 「5分以下」が最も多く、64.4%。次いで「6～10分」が26.9%。
○ 11分以上かかったと答えたのは8.7%。

問 「トライアル採点課題」の採点にはどれくらい時間がかかりましたか。
1人分の採点にかかった時間を教えてください。

①5分以下 ②6～10分 ③11～15分 ④16～20分 ⑤20分以上

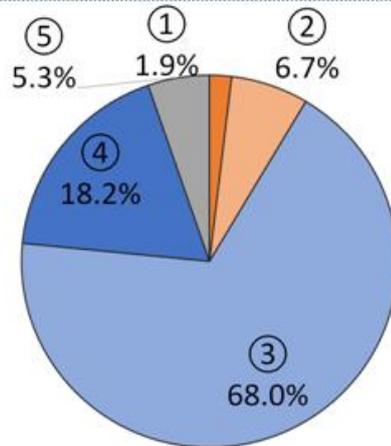


■採点人数は適切だったか

- 「適切だった」が最も多く、68.0%。次いで「やや多かった」18.2%が続いた。

問 「トライアル採点課題」では6名分のトライアル採点に取り組んでいただきました。
「トライアル採点課題」の数は適切でしたか。

①少なかった ②やや少なかった ③適切だった ④やや多かった ⑤多かった

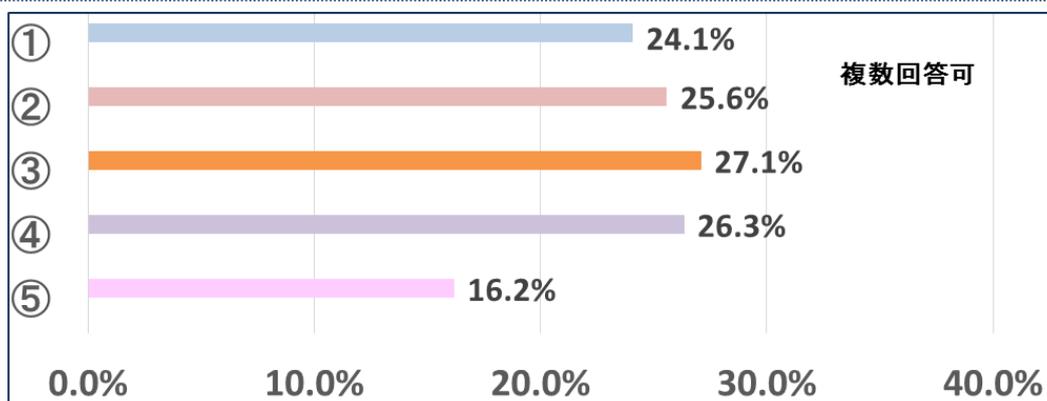


■採点で迷った点があったか

- ①②③④に大きな差はなかった。③「Part B 文法・表現の評価」で迷った点があったと答えた回答者が最も多く、27.1%。
- 「事前研修におけるトライアル採点に関する調査」において採点が一致しない率は高かった。中でも、⑤「Part C 文法・表現」は最も低かった。

問 「トライアル採点課題」の採点で、迷った点がありましたか。
下記から当てはまるものを教えてください。（複数回答可）

①Part A 音読の評価 ②Part B 内容の評価 ③Part B 文法・表現の評価
④Part C 内容・構成の評価 ⑤Part C 文法・表現の評価

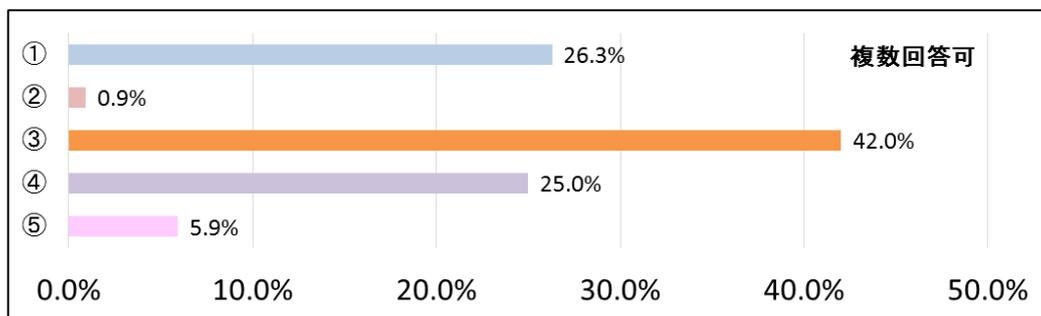


■採点で迷った時にどうしたか

- ③『研修DVD付属冊子』を見直した」と答えた回答者が最も多く、42.0%。理由は「採点基準を確認するため」が多い。
- 次いで①「外国語（英語）科教員と相談した」が 26.3%。理由は「採点基準を統一するため」が多い。

問 迷った点を選んだ方にお聞きします。解決のためにしたことはありますか。（複数回答可）

- ①外国語（英語）科教員と相談した ②外国語（英語）科以外の教員と相談した
 ③「研修DVD付属冊子」を見直した ④「研修DVD」を見直した ⑤特になにもしていない

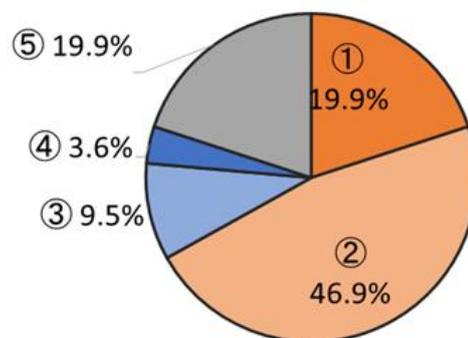


■採点で迷った点は採点例で解消されそうか

- 「そう思う」と答えた回答者は①②合計で 66.8%。理由に「解説がわかりやすかった」という声が多い。
- 「そう思わない」と答えた回答者は③④合計で 13.1%。理由は「解説にはないケースについて知りたい」など。

問 迷った点を選んだ方にお聞きします。
 この「トライアル採点課題 採点例(解説)」を読んで迷った点は解消されそうですか。

- ①そう思う ②どちらかといえば、そう思う
 ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない ⑤迷った点はなかった

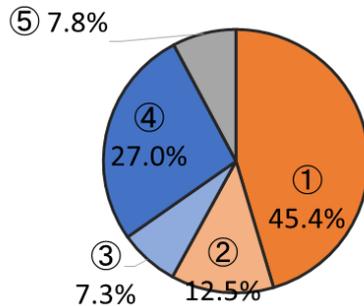


■採点基準の理解を深めるために

- ①「採点例を確認したあと、自分が採点できていなかった『トライアル採点課題』に
もう一度取り組む」が45.4%と最も高かった。次いで④「採点基準を理解するための解説な
どを充実する」が27.0%。
- ⑤「その他」と答えた7.8%には「専門の業者に全国一律の基準で採点してほしい」と
いう声が多い。

問 採点基準を理解するためには、どのような手法がもっとも効果的だと思いますか。

- ①採点例を確認したあと、自分が採点できていなかった「トライアル採点課題」にもう一度取り組む
②より多くの「トライアル採点課題」に取り組む ③校内で研修会を実施する
④採点基準を理解するための解説などを充実する ⑤その他

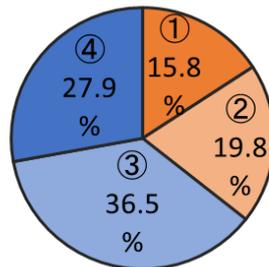


■研修を Web で実施することについて

- ③④「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」と答えた回答者が64.4%と
過半数を占めた。理由は「ネット環境が不安」「手元に来た方がみやすい」「すぐ取り組め
てよい」という声が多かった。
- ①②「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた回答者は35.6%。理由は「資
源やコストの節約になる」「保管場所に困らない」「簡単で便利」という声が多かった。

問 研修DVDと付属冊子をWebからダウンロードしてWeb上で取り組んでいただくことになった場合、
より取り組みやすくなると思いますか。

- ①そう思う ②どちらかといえば、そう思う ③どちらかといえば、そう思わない ④そう思わない



9. その他の意見

■事前研修及び調査実施に対する評価

事前研修について
<ul style="list-style-type: none"> ○事前研修教材は、パフォーマンス評価実施に大変参考になった。何度も繰り返して見て、実際の採点方法を学ぶことができた。 ○担当教員が一人であってもその拠り所となるものであり、実施する上で大いに参考になった。 ○DVD研修で日頃の評価における採点基準が厳しい目で見ていることに客観的に気付くことができた。 ○DVD研修を通じ、どのようなことを意識して聞けば良いかが分かった。

※調査実施後の意見

- 事前研修と実際の調査を通じて生徒に身に付けるべき力、どのように指導すれば何ができるようになるかが明確になった。調査実施後の授業ですぐに生かしていきたい。
- 生徒の間で「英語で話そう」という雰囲気ができた。

【課題】※調査運用上の課題については、次年度以降の英語力調査において改善を検討。

DVD	採点基準	テスト内容	その他	
<ul style="list-style-type: none"> ○全サンプルを見終えてウェブ入力しないと採点例が見られず、とても不便だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○採点の2点と1点の違いが一番迷った。採点の判断が難しい箇所は採点の例示を追加したり、採点基準について明確にすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ○内容面では、研修用・本番用の質問を見る限り、Part B-3やPart Cの質問に対してWhy?と聞かれても英語力に関係なく答えづらいものがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が沈黙した場合にどの程度までサポートや助言が可能なか例示をもっと示してほしい。生徒は何とか答えようとしている場合が多いため「何もできなかった」と意欲低減にならないようにするため。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○トライアル採点課題は、すぐにその場で答え合わせできるようにしてほしい。 			<ul style="list-style-type: none"> ○これだけの時間を割いて、勤務中に業務をし、現場に還元されるものがないのではないかな。 	
実施の体制	実施時期	通達時期	資材送付	時間割
<ul style="list-style-type: none"> ○当日の試験について、通常的时间割を変更するなど、現場に負担がかかる調査になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○7月実施は通知表業務や学期末業務で慌ただしい時期。もっと早めに事前資料をいただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校は年度初めに年間計画を立てるため、試験がある場合は、何か月か前から伝えていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研修用DVD等の送付を、もう少し早く送付してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○最初に試験当日のタイムスケジュールの見本を載せていただきたい。 ○できれば時間設定を学校的时间割にあわせていただきたい。

5. まとめと今後の展望

■事前準備・事前研修について

- 「事前準備で調査の実施手順はわかったか」という設問には97%の回答者が「そう思う」と答えており、資材内容・運営方法に大きな問題はなかったと考えられる。
- 対面による「話すこと」の調査については、
 - ・ 統一的な採点基準によって客観的な評価方法を学ぶことができた
 - ・ 普段の授業で課題を抱えている生徒への指導につなげたい、といった意見が多く、対面による調査自体に対して肯定的に評価する意見は多かった。

■事前研修における「採点結果」について

- ・ 採点結果を分析すると、正答スコアより低く(厳しく)採点している傾向があった。後述の実際の調査における採点と異なり、生徒の普段の相対的な学力を踏まえた先入観に左右されずに採点していることが理由と考えられる。(実際の調査では正答スコアより高く採点する傾向があった。)
- ・ 正答スコアとのずれは「Part C 文法、表現」において多くみられた。正答が2点のときに、1点と迷ってしまうケースが多く見られた。採点基準の「誤りの数」の考え方について採点基準と回答者の認識の間にずれがあったことが理由の一つと考えられる。
- ・ 「採点で迷った点は採点例で解消されそうか」という設問に、66.8%の回答者が「そう思う」と答えている。理由は「解説がわかりやすかったため」と答えた回答者が多く、また「採点基準を理解するためには、どのような手法がもっとも効果的か」という設問に、「採点例を確認したあと、自分が採点できていなかった『トライアル採点課題』にもう一度取り組む」と答えた回答者が半数近くいた。

■今後の運営方法や改善点

[採点基準の改善]

- 採点基準の精度を高めるため、事前研修資料における採点基準について、特に教員が採点に迷った箇所については、指示文をより明確にしたり、具体例を掲載したりするなど、より丁寧に説明を付すことが必要である。
- 特に採点が一致していなかった中位レベルの生徒(正答が2点が多い生徒)に対する評価などの採点基準自体の見直しも必要である。
- ほぼ「話すこと」が困難で沈黙が多かった生徒に対する対応なども実施運営上の留意

点などとして工夫を行うことが必要である。

〔教員による採点の改善〕

- 教員による採点の正確性、信頼性を高めるため、本調査結果を踏まえ、「トライアル採点課題」に取り組んだ後、採点例と詳しい解説を確認し、正答と採点結果が一致していない点があるかどうか、どのような要因で一致しなかったのかを理解した上で、再度採点に取り組むことが必要である。
- また、①他の教員との採点に関する研修や、調査後の検収の結果との比較を行うことにより、どのような点で採点が一致していなかったか、その要因について把握し、より客観的な評価を行うため、パフォーマンス評価の研修において、振り返りなどを行い、採点の正確性、信頼性を高める必要がある。

〔その他、事前研修、採点のための資料における改善など〕

- 「テストの内容が生徒にとって身近なものでなく答えにくいものだった」等の意見があった。
- 実施の「通知時期を早めてほしい」「実施時期を検討してほしい」など事業そのものに対する声もあがっていた。

(2)「話すこと」の調査に係る検収結果 報告

1. H28年度「話すこと」検収の目的・検収対象

■ 検収目的

①教員の対面による採点状況を把握する

学校の英語科教員が研修用DVDと付属冊子による事前研修を受けた上で、調査本番でどのような採点を行ったのかを明らかにする。

②正答と採点が一致していない件数を低減させるための改善方法を模索する

どの観点・素点で正答と採点が一致していないのかを見極め、英語力調査における事前研修で強化すべきポイントを明確にする。

③採点者（教員）のパフォーマンス評価力を上げる

本結果を活用した研修において、教員の対面による評価の特徴・傾向を把握し、課題への対策を行うことで、より正確なパフォーマンス評価を行うことができるようにする。

④今後の英語力調査などの改善・充実に活用する

検収結果を踏まえた採点基準などの改善のための基礎データ収集を行う。

■ 検収対象校／人数

- ・ 文部科学省のヒアリング実施校の中から対象校3校を選定した。
※英語力が偏ったサンプルにならないよう、様々な学力層の学校を対象校として選定。
- ・ 検収目標件数は3校合計で100件と設定した。

「話すこと」H28年度受験者数と平均点

- | | | |
|------|----------------|----------------------|
| ● A校 | (受験者数27人／1学級) | 平均点7.2点 (CEFR A1下位) |
| ● B校 | (受験者数108人／3学級) | 平均点10.0点 (CEFR A1上位) |
| ● C校 | (受験者数94人／3学級) | 平均点8.5点 (CEFR A1下位) |

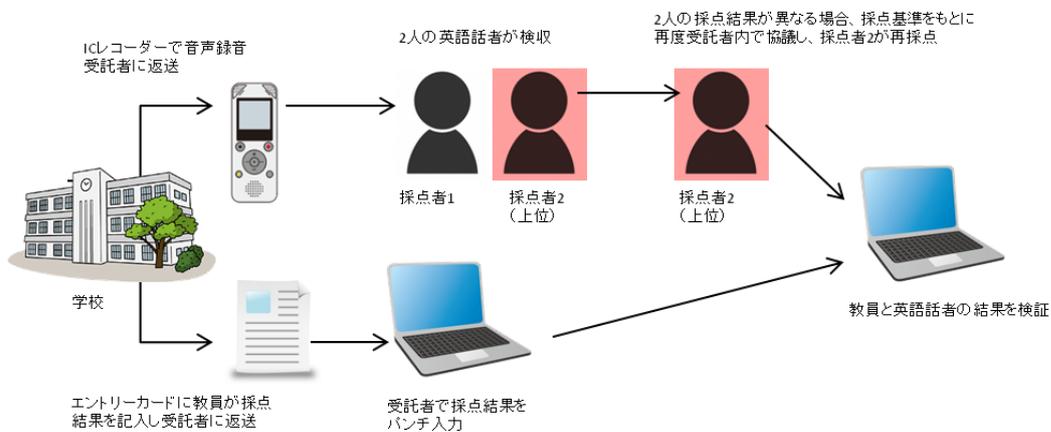
※平均点は、教員の採点結果をもとにして算出。該当校における「話すこと」受験者全体を母集団とした数値。

※CEFRレベルはH27年度「話すこと」CEFR閾値を参照。ただし平均点はH28年度実施の結果である。

2. H28 年度「話すこと」検収の方法と採点基準

■ 検収方法

- ・学校において英語科教員が採点基準（ループリック）をもとに採点。
- ・対象校の生徒の解答音声をICレコーダーで録音し、受託者内で採点経験がある英語話者2人が採点した。
- ・2人の結果が異なる場合は、再度、受託者において採点基準の明確化を行った上で、2人のうち上位採点者が再採点を行った。
- ・学校で行った教員の採点結果と、受託者内における検収結果を検証した。



■ 採点基準

	Part A：音読	Part B：即興を前提とするやりとり		Part C：ある程度の準備をした上で話すこと	
	音読の評価	内容の評価	文法、表現の評価	内容、構成の評価	文法、表現の評価
3点		相手の発話に対応した適切な内容で、すべてに回答できている	適切に回答できていて、適切な文法や表現を用いて話している。誤りがあっても理解には影響しない	与えられた質問に対応した内容となっていて、論理展開がわかりやすい構成となっている	自分の言葉で十数語以上は話して、適切な文法や表現を用いている。誤りがあっても理解には影響しない
2点	明瞭で自然な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさで話している	相手の発話に対応した適切な内容で、おおそ回答できている	ほぼ適切に回答できていて、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる	与えられた質問に対応した内容となっていて、単純な要素を関連づけて述べている	自分の言葉で十数語以上は話して、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる
1点	母語アクセントが残っていたり、発音ミスも時があるが、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさで話している	相手の発話に対応した適切な内容で回答できているのは半分以下である	時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使っていて、伝えたい内容はだいたいわかる	与えられた質問に対応した内容となっていて、単純な要素を並べ立てている	自分の言葉で十数語以上は話して、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使っていて、伝えたい内容はだいたいわかる
0点	適切に発音できる内容は限定的で、聞き手が理解するのに困難が伴う	相手の発話に対応した適切な内容でほとんど回答できない	使える文法や表現は限定的である。あるいは、適切な内容でほとんど回答することができない	与えられた質問に対応した内容になっていない。あるいは内容が量的にほとんどないか断片的である	使える文法や表現は限定的である。あるいは自分の言葉で話せた内容が十数語に満たない

3. H28 年度「話すこと」実施問題

Part A : 音読

I just saw Keiko during lunch. She told me that her family was moving to France. I couldn't believe it! It will be great for her to live in France, but she doesn't speak French. What will she do about that?

Please read the passage silently for 30 seconds.

(試験官が準備時間の30秒を測定します。30秒後に音読開始の指示を出します。)

Now please read it aloud.

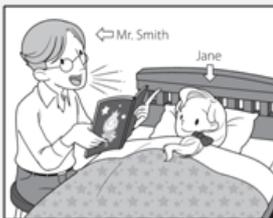
(生徒が解答します。採点してください。)

Part B : 即興を前提とするやりとり ※Question No.1~3のやりとり全体を通して採点

Picture A



Picture B



Question No.1:

Please look at Picture A. What is the girl doing?

【解答例】 *She is watching TV.*

Question No.2:

Please look at Picture B. What is Mr. Smith doing?

【解答例】 *Mr. Smith is reading a book to Jane.*

Question No.3:

Which do you like better, playing sports or watching sports?

(生徒が解答します。生徒の解答の後、重ねて質問してください。)

Why?

(生徒が解答します。)

【解答例】 *I like playing sports more than watching sports. I usually enjoy playing soccer with my friends. I am very excited when my team wins.*

Part C : ある程度の準備をした上で話すこと

Topic: The best way to learn English

What is the best way to learn English, and why do you think so? You will have one minute to think about your answer. Then, you will have one minute to speak.

(試験官が準備時間の60秒を測定します。60秒後に解答開始の指示を出します。)

Now, please begin.

(生徒が解答します。採点してください。)

【解答例】 *I think the best way to learn English is to read English stories out loud. It helps you to remember new words and phrases.*

4. H28 年度「話すこと」検収結果概要

■問題パート別結果

	評価観点	正答と一致しなかった件数	有効データ数
Part A	音読の評価	98件	136件
Part B	内容の評価	96件	
	文法、表現の評価	89件	
Part C	内容、構成の評価	76件	
	文法、表現の評価	68件	

パート別結果

- 正答と採点が一致しなかった件数はいずれのパートも半数を上回った。特にPart A「音読の評価」については98件、Part B「内容の評価」については96件となるなど、**いずれの問題も約7割～5割は、採点が一致していなかった。**

■有効データ数

有効データ数は136件（抽出数の75%）。調査において想定されていない（「試験官用スクリプト」に沿って実施されていない）ケースであると判断したものは、有効データから除いている。有効でないデータとして判断したケースについては、後述ページを参照。

	①学級数	②検収対象データ数※	③「②」のうち、有効データ数	有効データ数合計（割合）
A校	1学級	20件	13件	136件 (75%)
B校	3学級	87件	84件	
C校	3学級	75件	39件	

※検収目標件数は3校合計で100件と設定したため、取得した全データの検収は行っていない。

よって②の件数は、前述の各校の「話すこと」受験者数とは一致しない。

5. H28 年度「話すこと」観点別検収結果

Part A (音読)

- 音読の評価において採点が一致しなかった件数は98件。正答0点を「1点」、1点を「2点」と採点するケースが多く、1段階高く評価する傾向が見られる。2点（満点）については正しく採点されていた。

音読の評価

正しい素点	生徒数	学校における採点による素点	生徒数
0点	62	0点	6
		1点	44
		2点	12
1点	64	0点	0
		1点	22
		2点	42
2点	10	0点	0
		1点	0
		2点	10

<採点基準>

2点	明確で自然な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話している
1点	母語アクセントが残っていたり、発音ミスも時にあるが、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話している
0点	適切に発音できる内容は限定的で、聞き手が理解するのに困難が伴う

※ 枠囲みは正答と異なる採点を行った生徒数

<考察>

・パッセージの語数 41 語のうち、約半分の語にアクセントミスや発音ミスがあれば「0点」としているが、教員は発音ミスや母語ストレスなどを厳密に検出していない可能性が高い。

例) saw→サウ、during→ドゥーリング、France→フランチ/フォンセ、
about→アバウト (アクセント無し)

・総じてイントネーション無しで読んでいるものは最大で「1点」しかつけていないが、教員はすべて読めていれば「2点」をつけた可能性がある。

<改善案>

・「1点」の採点基準が明確になれば、「0点」と「1点」の両方の採点精度が高まる。「1点」の採点基準が明確になるように、採点を誤りがちな解答音声例を研修用 DVD に追加する。(※音読については音声例を載せることが効果的。)

・1つの観点に複数の確認項目が混在しているため、「音読」として見る項目を絞る（現状は、発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさの5つ）。

※採点基準において、赤字下線のようなあいまいな記述を「20語以上」など数字で明確にすることも一案だが、現時点では対面形式のテストにおいて、ミスの数を正確に数えることは困難な状況である。

Part B (即興を前提とするやりとり) / 内容の評価

- 内容の評価において一致しなかった件数は96件。1点を「2点又は3点」、2点を「3点」とつけるケースが多く、1～2段階高く評価する傾向が見られる。3点(満点)については、ほぼ正しく採点されていた。

内容の評価

正しい素点	生徒数	学校における採点による素点	生徒数	
0点	10	人	0点	1
			1点	5
			2点	3
			3点	1
1点	65	人	0点	2
			1点	9
			2点	31
2点	51	人	3点	23
			0点	1
			1点	0
3点	10	人	2点	22
			3点	28
			0点	0
			1点	0
			2点	2
			3点	8

<採点基準>

3点	相手の発話に対応した適切な内容で、 すべて に回答できている
2点	相手の発話に対応した適切な内容で、 おおよそ に回答できている
1点	相手の発話に対応した適切な内容で回答できているのは 半分以下 である
0点	相手の発話に対応した適切な内容で ほとんど に回答できない

※ 枠囲みは正答と異なる採点を行った生徒数

<考察>

- ・3つの設問に対して総合評価をするため、採点が難しく、一致していない件数が多くなった可能性がある。
- ・採点基準において、「おおよそ」「半分以下」などの表現がわかりにくかった可能性がある。
- ・No.3において、論理的に成立していない解答も、発話量に引きずられて高く評価している可能性がある。

例) I like watching sports better. I watch baseball better, but I don't play baseball.

(私はスポーツを見る方が好きだ。私は野球をさらに見る、でも私は野球をしない。)

- ・No.1での「The girl is watching. (目的語の“TV”抜け)」、No.2での「Mr. Smith is reading a book. (“to Jane”などの目的語抜け)」などは不完全な解答と判断したが、教員は許容した可能性がある。

<改善案>

- ・採点表(エントリーカード)に3つの設問それぞれの採点結果記入欄を作る。
- ・採点基準において、赤字下線のようなあいまいな記述を「おおよそ=2つの問いに」「半分以下=1つの問いに」など数字で明確にする。
- ・許容及び不可の解答例を研修用DVD付属冊子で提示する。
(ただし、具体例以外のケースについて判断に迷うことになりかねない点は留意したい。)

現状の採点表（エントリーカード）

Part Bに観点ごとの採点結果記入欄しかなく、各設問の結果を書ける仕様になっていない。

出題		採点結果の記入欄				
構成	内容	適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話しているかどうか	相手の発話に対応した適切な内容のやりとりとなっているかどうか	適切な文法や表現を用いて話しているかどうか	与えられた質問に対応した適切な内容となり、論理展開が分かりやすい構成になっているかどうか	適切な文法や表現を用いて話しているかどうか
Part A	音読	2・1・0				
Part B-1						
Part B-2	即興を前提とするやりとり		3・2・1・0	3・2・1・0		
Part B-3						
Part C	ある程度の準備をした上で話すこと				3・2・1・0	3・2・1・0

/2	/3	/3	/3	/3	/3	/14
----	----	----	----	----	----	-----

得点
合計欄

Part B (即興を前提とするやりとり) / 文法、表現の評価

- 文法、表現の評価において採点が一致しなかった件数は89件。1点を「2点」、2点を「3点」とつけるケースが多く、1段階上に評価する傾向が見られる。3点(満点)については、正しく採点できていた。

文法、表現の評価

正しい素点	生徒数	学校における採点による素点	生徒数
0点	10	0点	3
		1点	5
		2点	1
		3点	1
1点	80	0点	3
		1点	19
		2点	43
		3点	15
2点	43	0点	1
		1点	0
		2点	22
		3点	20
3点	3	0点	0
		1点	0
		2点	0
		3点	3

<採点基準>

3点	適切に回答できていて、適切な文法や表現を用いて話している。誤りがあっても理解には影響しない
2点	ほぼ適切に回答できていて、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる
1点	時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使っていて、伝えたい内容はだいたいわかる
0点	使える文法や表現は限定的である、あるいは、適切な内容でほとんど回答することができない

※ 枠囲みは正答と異なる採点を行った生徒数

<考察>

- ・3つの設問に対して総合評価をするため採点が難しく、一致していない件数が多くなった可能性がある。
- ・採点基準において、3点、2点、1点の違いがわかりにくく、判断に迷った可能性がある。
- ・No.2において「Mr. Smith reads book. Jane is listening.」などの解答は、前半の時制が現在形になっておりミスととらえるべきだが(意味は伝わるため内容面は許容)、教員が進行役を務めながらこのようなミスを漏れなく把握できなかった可能性がある。

<改善案>

- ・採点表(エントリーカード)に3つの設問それぞれの採点結果記入欄を作る。
- ・採点基準において、赤字下線のようなあいまいな記述を「誤りがあっても理解には影響しない(例えば、冠詞のミスなど)」など具体例も挙げながら、素点ごとの違いがわかりやすくするように修正する。
- ・許容及び不可の解答例を研修用DVD付属冊子で提示する。(ただし、具体例以外のケースについて判断に迷うことになりかねない点は留意したい。)

※採点基準において、赤字下線のようなあいまいな記述を「ほぼ適切に=発話の10%以内のミス」など数字で明確にすることも一案だが、現時点では対面形式のテストにおいて、ミスの数を正確に数えることは困難な状況である。

Part C (ある程度の準備をした上で話すこと) / 内容、構成の評価

- 内容、構成の評価において採点が一致しなかった件数は76件。0点を「1点又は2点」、2点を「3点」とつけるケースが多く、1～3段階高く評価する傾向が見られる。

内容、構成の評価

正しい素点	生徒数	学校における採点による素点	生徒数
0点	119	0点	53
		1点	29
		2点	24
		3点	13
1点	1	0点	0
		1点	0
		2点	1
2点	15	0点	0
		1点	2
		2点	6
3点	1	0点	0
		1点	0
		2点	0
		3点	1

<採点基準>

3点	与えられた質問に対応した内容となっていて、論理展開がわかりやすい構成となっている
2点	与えられた質問に対応した内容となっていて、 単純な要素を関連づけて述べている
1点	与えられた質問に対応した内容となっているが、 単純な要素を並べ立てている
0点	与えられた質問に対応した内容になっていない、あるいは内容が量的にほとんどないか断片的である

※ 枠囲みは正答と異なる採点を行った生徒数

<考察>

・採点基準において、「1点：単純な要素を並べ立てている」や「2点：単純な要素を関連づけて述べている」の説明がわかりにくかった可能性がある。

1点の例：I think listening to English music is good... I like English.

(意見とその続きの文がつながっておらず、単純な要素を並べているだけ)

2点の例：I think the best way is reading because it's interesting.

(意見と理由がきちんとつながっており、要素の関連づけができています)

・設問自体が難しく0点が多かったため、校内で比較的良好に解答できた生徒には、ルーブリックに見合った解答でなくても高めの素点をつけてしまった可能性が高い。また、自校の生徒に対しては、教員は極力理解しようとする姿勢で採点に臨んでしまうため、高めに採点してしまった可能性もある。

<改善案>

・採点基準において、赤字下線のようなわかりにくい記述を「意見と理由などが矛盾している／つながっている」などに変更する。

・許容及び不可の解答例を研修用DVD付属冊子で提示する。(ただし、具体例以外のケースについて判断に迷うことになりかねない点は留意したい。)

Part C (ある程度の準備をした上で話すこと) / 文法、表現の評価

- 文法、表現の評価において採点が一致しなかった件数は68件。1点を「2点又は3点」とつけるケースが多く、1～2段階高く評価する傾向が見られる。一方、1点を「0点」と一段階低くつけるケースは5つの観点の中で比較的多く見られた。

文法、表現の評価

正しい素点	生徒数	学校における採点による素点	生徒数
0点	51	0点	41
		1点	7
		2点	3
		3点	0
1点	77	0点	8
		1点	25
		2点	29
		3点	15
2点	7	0点	0
		1点	0
		2点	1
		3点	6
3点	1	0点	0
		1点	0
		2点	0
		3点	1

<採点基準>

3点	自分の言葉で十数語以上は話して、適切な文法や表現を用いている。誤りがあっても理解には影響しない
2点	自分の言葉で十数語以上は話して、 文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる
1点	自分の言葉で十数語以上は話して、時制の誤りなど 基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使っていて、伝えたい内容はだいたいわかる
0点	使える文法や表現は限定的である、あるいは自分の言葉で話せた内容が十数語に満たない

※ 枠囲みは正答と異なる採点を行った生徒数

<考察>

・「1点」を「2点」や「3点」と高めに付けたケースについては、素点ごとの採点基準の記述の違いがわかりにくかった可能性がある。また、自校の生徒に対しては、教員は極力理解しようとする姿勢で採点に臨んでしまうため、「伝えたい内容はわかる」と採点してしまった可能性もある。

・1点を「0点」と1段階下につけたケースについては、「文法、表現」と「内容、構成」とは独立して採点するべきだが、「内容、構成」に引きずられて、1点相当の解答に対して「0点」と厳しくつけてしまった可能性がある。

<改善案>

・採点基準において、赤字下線のようなあいまいな記述を「誤りがあっても理解には影響しない（例えば、冠詞のミスなど）」など具体例も挙げながら、素点ごとの違いがわかりやすくするように修正する。

・許容及び不可の解答例を研修用 DVD 付属冊子で提示する。（ただし、具体例以外のケースについて判断に迷うことになりかねない点は留意したい。）

・各観点の採点の独立性について、研修用 DVD 付属冊子で説明する。

※採点基準において、赤字下線のようなあいまいな記述を「基本的なミスが繰り返し出る＝発話の20%以上にミス」など数字で明確にすることも一案だが、現時点では対面形式のテストにおいて、ミスの数を正確に数えることは困難な状況である。

6. (参考) 検収において有効なデータとして扱わなかったケース

有効データとして扱わなかった調査結果例

「話すこと」の調査において、生徒の発話が直ぐに行われなかったり、一部の語彙や表現に課題を抱えている生徒に対して、試験官（教員）が質問に対する補足を行ったりするなど、調査において想定されていない対応を行ったものが多かった。

Part B

■試験官が No.3 の「Why?」（理由）を聞いていない（B校）

- ・生徒が「意見」を言うので精いっぱいだったため聞かなかったケース
- ・聞かなくても生徒が「理由」を述べているケース
- ・原因不明だが、試験官が「理由」を聞かなかったケース

■試験官が No.3 自体を問うていない（A校、C校）

■試験官が No.3 で「Why?」を聞くべきではないのに聞いている

例①：「Soccer.」としか答えていないのに「Why?」と聞いている（B校）

例②：「I like volleyball.」と答えているのに「Why?」と聞いている

生徒の解答は「Because volleyball is interesting.」（C校）

⇒①、②ともに「Why?」の質問対象が変わってくるため「文法、表現」の観点に影響

■試験官が独自で質問を追加している

例③：「He is reading a book for Jane.」という生徒の解答に「Why?」と聞いている

生徒の解答は「Because he is her father.」、それに対して更に「Tell me more.」と質問を重ねている（C校）

Part C

■試験官が生徒のフォローを追加的に行っている

例④：生徒の解答後に「Are there any other way to learn English?」と聞いている

⇒追加発言したものが間違っていた場合、減点対象になる

■生徒が不完全ながら約 90 秒間解答したものに対して、再度試験官が質問の繰り返しから始めている

■設問を変更している

例⑤ : Which color do you like best? (研修用 DVD の質問を聞いている)

例⑥ : Which do you like better, playing soccer or playing baseball? (完全な別問)

例⑦ : Which do you like better, reading books or playing baseball? (完全な別問)

例⑧ : Why do you think English is important? (完全な別問)

■追加質問をしている

例⑨ : 生徒の解答が終わった後に、更に「Why do you think so?」と聞いている (B校)

全体

■試験官が生徒のカタカナ英語の発話を訳している、または設問の英語を日本語に訳している

例⑩ : (生徒) I like move my ...karada... → (試験官) Body?

例⑪ : (試験官) The best way, houhou (方法), to learn English～

■10 秒間待たずに「Is that all?」や「Finished?」で解答を打ち切っている (C校に多い)

例⑫ : Part B No.2

Mr. Smith is reading a book...

(ここで打ち切っているため to her (Jane) が言えなかった可能性あり。結果的に内容＝0点)

■Part A や Part C で指定の準備時間を独自で長く設定している (70 秒、50 秒など)

7. H28 年度「話すこと」検収総括と提案

■採点の状況

- ・総じてどの観点においても採点が一致しない件数が多かった。
- ・特に Part A の音読、Part B のように 3 つの設問について総合評価する問題で、一致しない件数が多かった。
- ・採点が一致しなかった場合、実際の正答よりも高い素点をつける傾向が見られた。(事前研修における採点で一致しなかったケースでは、実際の正答よりも低い素点をつける傾向があった。)

■採点が一致しなかった要因として考えられること

1) 採点基準とその解釈

採点基準におけるあいまいな記述(例:「ある程度理解できる」「おおよそ応答できている」など)によって、その解釈に差異が生まれ、採点に不一致が起きた可能性が高い。

2) 生徒の「話すこと」に関する英語力

生徒の英語力が出題レベルに満たなかった場合、教員は学校内の生徒のレベルに合わせて相対的に採点し、ルーブリックに沿った絶対評価ができなかった可能性が高い。英語のレベルが高い生徒が校内にいなかったため、校内で比較的よく解答できた生徒には、ルーブリックに見合った解答でなくても高めの素点をつけてしまったと推測される。

3) 問題の弁別力

Part B・No.3 や Part C は難易度が高すぎて、2 点及び 3 点の生徒がほとんどいなかったことから、採点者は 2 点及び 3 点に満たない解答も高めに採点してしまった可能性が高い。また、Part B・No.3 では、意見を聞いた後に理由を確認する 2 段階の設問形式となっており、理由を聞き忘れるケースや、生徒の意見部分の解答によっては理由を確認するのが適切ではないケースも多数見受けられた。これらの問題の特性が、一致していない件数を増加させた可能性がある。

4) 試験官のテスト実施体制

ヒアリングでは、「試験官が 1 名の場合、進行役と採点者の役割を兼ねて英語のテストを行ったことが負担となり、信頼性の高い採点が困難な状況だった」という声もあった。

■考えられる改善点

今回の検収結果を受けて、今後の調査方法などの改善、教員のパフォーマンス評価能力の向上に生かす改善点として以下のようなことが考えられる。

- ①事前研修において解答事例を多く挙げて、それらの採点方法を示し、採点のあいまいさを減らす。
- ②採点方法に習熟するよう、過去の実際の事例や検収における採点例を事前研修において活用する。
- ③採点基準における指示文（採点者向け）などを明確にする。
- ④より客観性を高めるため、採点者を調査対象となる学級の英語担当教員ではなく、別の学年や近隣学校の英語担当教員が担当する。
- ⑤教員の評価力向上に資する調査とするため、引き続き、適切に採点がなされているかどうか無作為抽出による検収を行い（ICレコーダーなどによる録音）、一致しない場合は改善を図る。
- ⑥事前研修における採点状況や、調査後の検収結果における課題を把握し、パフォーマンス評価などの研修において活用する取組を実施する。

■補足

○ 「話すこと」の採点方法を大きく2つに分けると「holistic scoring（全体的採点）」と「analytic scoring（分析的採点）」がある。現在のルーブリックに基づく採点は、様々な確認項目が1つの観点に含まれる「全体的採点」だが、「分析的採点」より簡便であるため、教員による採点が続けるならば、この方法を維持することが現実的である。ただし、その場合、印象的な評価を含む点は避けられないため、ある程度現実的な検収結果に関する基準（一致していない件数がどの程度なら許容とするか）を設定する必要がある。

○ 教員による採点において、正答と採点が一致していない件数を低減させるためには、事前研修の強化が必要になるが、学校現場の負担を考えると、研修用DVD付属冊子の内容を充実させること（許容及び不可の解答例を提示するなど）、DVDの「トライアル採点課題」に取り組んだ後、採点例と詳しい解説を確認し、軌道修正した上で本番の採点に取り組むことなどが効果的と思われる。また、採点期間中に適宜DVDを見直すように教員を促すことで、採点者自身の採点の正確性を高めることが期待される。

○ 採点基準などの改善に当たり、試験官1名による対面形式のテストであることを考慮し、

採点基準の各観点に含まれる確認項目を必要かつ適切なものに絞ることも考えられる。例えば、Part A（音読）においては、現状「発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさ」の 5 つが確認項目となっているが、学習指導要領における「話すこと」の言語活動の指導事項の 1 つは「強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること」となっているため、これに準じた基準とすることが考えられる。

○ Part B や Part C においては、「文法、表現の評価」とともに、「内容の評価」の観点も正確に評価されるよう工夫することが考えられる。例えば、現状 0 点～3 点の 4 段階である Part B や Part C の採点基準をより明確にすることや、素点の段階数を減らすことなどがその例である。そうすることで、特に中間である 1 点と 2 点の各素点の採点基準の違いが明確になることが期待される。

○ なお、確認項目の変更や段階数の変更は、データの経年比較への影響が想定されるので、それも踏まえて判断が必要である。

○ 採点時の教員の負担軽減として、試験官用スクリプトなどについては、書類上の文字などが小さく試験をしながら確認することが困難であるとの指摘があったことを踏まえ、問題部分を大きく見やすくすることで試験官のテスト進行負担を下げる、また Part B については、採点表（エントリーカード）に 3 つの設問それぞれの採点結果記入欄を作るなど、実施アイテムに工夫を加えることで改善する部分もあると考えられる。

(3)「書くこと」の調査に係る検収結果 報告

1. H28 年度「書くこと」の検収の目的、方法と採点基準

■ 検収目的

本調査における「書くこと」の検収方法等について、次のような観点から、検証を行った。

①採点が一致しない点の程度を確認する

採点拠点での採点結果と、採点拠点とは別に検収を行う体制を整備し、採点結果を比べて、一致しなかった点がどの程度あるのかを確認する。

②採点が一致しない点が出やすい観点を洗い出す

どの観点で一致しない点が出やすいのかを確認し、採点拠点へのフィードバックやトレーニングに生かす。

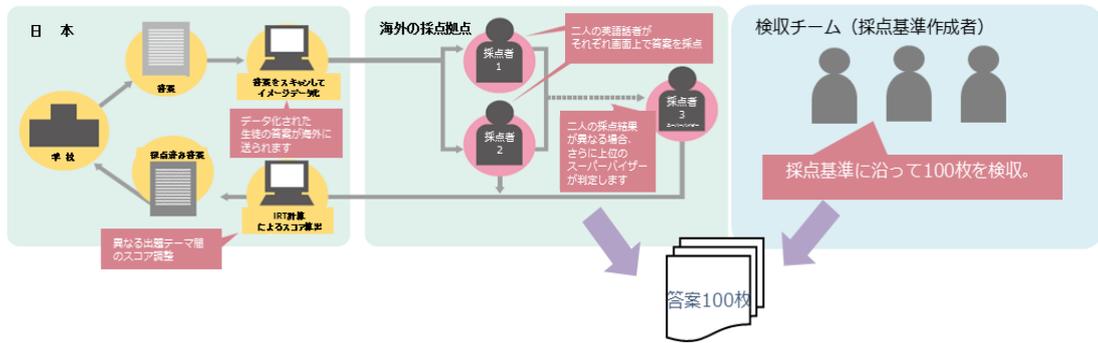
■ 検収方法

- ・採点拠点で採点済の答案画像を別の検収体制において採点し、一致しない点を検証した。

■ 採点方法

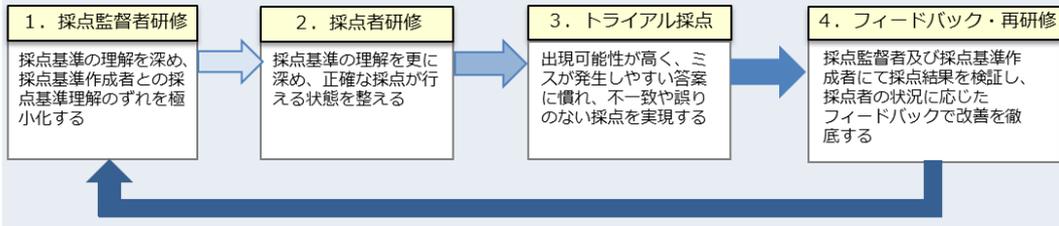
- ・採点拠点にて、2人の英語話者が採点基準をもとに採点した。
- ・採点者2人の結果が異なる場合は、3人目の採点者（スーパーバイザー）が採点した。

《採点拠点と検取チームで検取を実施》



●採点拠点への事前研修について

本番採点の前に、以下の流れで採点拠点への事前トレーニングを2度行っている。



■採点基準

1. 空所補充英作文問題

「0」または「1」で採点。

	0	1
内容	英文が書かれていなかったり、文脈から外れたことを書いている。	文法上の誤りがほぼ見られず、ほぼ正しく、内容を伝えることができています。

2. 意見展開問題

内容（意見）・内容（理由）は「0」または「1」で採点。

表現（語彙）・表現（文法）・構成については「0」～「4」の5段階で採点。

		0	1	2	3	4
内容（意見）	課題に対する自分の意見や立場を伝えることができています。	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	自分の言いたいことを伝える語彙を適切に選ぶことができなかったり、使い方に誤りが見られたりするため、伝えたい内容を理解できないところが多くある。	自分の言いたいことを伝える語彙を適切に選ぶことができなかったり、使い方に誤りが見られたりするため、考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	さまざまな語彙を文脈に合わせて適切に選ぶことができています。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができています。	豊富で多様な語彙を文脈に合わせて適切に選ぶことができています。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができています。
	自分の意見や立場をサポートする理由や具体例などを伝えることができています。	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られるため、伝えたい内容を理解できないところが多くある。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られることがあるため、考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	さまざまな文のパターンを用いることができています。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができています。	豊富で多様な文のパターンを用いることができています。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができています。
内容（理由）		英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	文と文とのつながりが悪かったり、言いたいことがうまくまとまっていなかったりするため、読み手が混乱して伝えたい内容を理解できないところが多くある。	文と文とのつながりがよくなかったり、言いたいことがうまくまとまっていなかったりするため、読み手が混乱して考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れもほぼ自然で、十分に考えを伝えることができています。	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れが自然で一貫しており、考えを明確に伝えることができています。

2. H28 年度「書くこと」実施問題

1. 空所補充英作文問題

1. 次の対話文(1)、(2)の()に合う適切な英文を作成し、自然な会話を完成させなさい。ただし、英文は主語と動詞を含んだ文で書きなさい。1.の時間は2問あわせて5分です。

- (1) あなたは友達のMikeたちと駅で会うことになっています。

Mike: Here you are! Finally! We're all waiting for you!

You: (1)

Mike: That's OK. It is only by 10 minutes. Don't worry.

You: Thanks.

- (2) あなたは教室で友達Kenに話しかけます。

You: Hi, Ken. Sorry, but I want to ask you something. (2)

Ken: Sure.

You: I forgot mine. I just need to write my name on my homework.

Ken: OK. Here you are.

You: Thanks.

<解答例>

(1) I'm sorry to be late.

(2) Can I borrow your pen?

2. 意見展開問題

あなたは授業中に、下記のテーマで英語の作文を提出することになりました。

作文のテーマ:

あなたが将来やってみたいことや、なりたいものは何ですか。1つ取り上げて、なぜそう思うのか、その理由を書きなさい。



<解答例>

I want to travel to foreign countries in the future. There are two reasons for this.

First, I want to talk to people in different countries. By doing this, I can make a lot of friends all over the world. This is one of my dreams.

Another reason is that travel can give me a wider view of the world. I can learn different points of view and different ways of thinking through traveling. I think this will help me in the future.

For these reasons, I want to visit many countries.

3. H28年度「書くこと」の検収結果概要

■検収対象校／人数

- ・文部科学省で取りまとめている実施校の中から無作為に3校選出した。※国立は除く。
- ・検収対象答案は3校の全答案枚数から無作為に100人分の答案を抽出した。

- A校 (40人／165人抽出) ※「書くこと」平均点31.3点 (CEFR A1下位)
- B校 (20人／114人抽出) 平均点25.3点 (CEFR A1下位)
- C校 (40人／229人抽出) 平均点32.5点 (CEFR A1下位)

※平均点は該当校における「書くこと」受験者全体を母集団とした数値。
 ※CEFRレベルはH27年度「書くこと」CEFR閾値を参照。ただし平均点はH28年度実施の結果である。

■問題・採点観点別の一致状況

問題	採点観点	正答と一致しなかった件数	合計(抽出データ数)
1	(1) 内容	2件	100件
	(2) 内容	0件	
2	内容 (意見)	2件	
	内容 (理由)	2件	
	表現 (語彙)	0件	
	表現 (文法)	0件	
	構成	0件	

問題・採点観点別の検収結果

- 1.空所補充英作文問題の(1)で採点が一致しなかったのは100件中2件。
- 2.意見展開問題では、5段階で評価する表現(語彙)・表現(文法)・構成の観点では、全て一致。一方で内容の観点で一致しなかったのは4件。

4. H28年度「書くこと」問題別検収結果

1. 空所補充英作文問題

- (1) で一致しなかったのは2件、(2) では0件。

(1)	正しい素点		生徒数		実際の採点による素点		生徒数	
	0点		54	人	0点		53	
					1点		1	
1点		46	人	0点		1		
					1点		45	

(2)	正しい素点		生徒数		実際の採点による素点		生徒数	
	0点		90	人	0点		90	
					1点		0	
1点		10	人	0点		0		
					1点		10	

	0	1
内容	英文が書かれていなかったり、文脈から外れたことを書いている。	文法上の誤りがほぼ見られず、ほぼ正しく、内容を伝えることができている。

<考察>

- 「0」または「1」での採点であり、採点基準もシンプルであったため、ほぼ全て一致していた。

2. 意見展開問題「内容（意見・理由）」

- 内容（意見）で一致しなかったのは2件、また内容（理由）では2件。

内容（意見）	課題に対する自分の意見や立場を伝えることができている。	内容（理由）	自分の意見や立場をサポートする理由や具体例などを伝えることができている。
--------	-----------------------------	--------	--------------------------------------

内容（意見）

正しい採点	生徒数	実際の採点による採点	生徒数
0点	17	0点	17
		1点	0
1点	83	0点	2
		1点	81

内容（理由）

正しい採点	生徒数	実際の採点による採点	生徒数
0点	26	0点	26
		1点	0
1点	74	0点	2
		1点	72

2. 意見展開問題「表現（語彙）」

- 表現（語彙）において全て一致。

0	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。
1	自分の言いたいことを伝える語彙を適切に選ぶことができなかったり、使い方に誤りが見られたりするため、伝えたい内容を理解できないところがある。
2	自分の言いたいことを伝える語彙を適切に選ぶことができなかったり、使い方に誤りが見られたりするため、考えが十分に伝わらないところが部分的にある。
3	さまざまな語彙を文脈に合わせて適切に選ぶことができている。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができている。
4	豊富で多様な語彙を文脈に合わせて適切に選ぶことができている。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができている。

正しい採点	生徒数	実際の採点による採点	生徒数
0点	2	0点	2
		1点	0
		2点	0
		3点	0
		4点	0
1点	41	0点	0
		1点	41
		2点	0
		3点	0
		4点	0
2点	55	0点	0
		1点	0
		2点	55
		3点	0
		4点	0
3点	2	0点	0
		1点	0
		2点	0
		3点	2
		4点	0
4点	0	0点	0
		1点	0
		2点	0
		3点	0
		4点	0

2. 意見展開問題「表現（文法）」

- 表現（文法）において全て一致。

表現 (文法)	0	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。
	1	理解が困難となるような文法上の誤りが見られるため、伝えたい内容を理解できないところが多くある。
	2	理解が困難となるような文法上の誤りが見られないところが部分的にある。
	3	さまざまな文のパターンを用いることができている。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができている。
	4	豊富で多様な文のパターンを用いることができている。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができている。

正しい素点	生徒数	実際の採点による素点	生徒数	
0点	12	人	0点	12
			1点	0
			2点	0
			3点	0
			4点	0
1点	36	人	0点	0
			1点	36
			2点	0
			3点	0
			4点	0
2点	51	人	0点	0
			1点	0
			2点	51
			3点	0
			4点	0
3点	1	人	0点	0
			1点	0
			2点	0
			3点	1
			4点	0
4点	0	人	0点	0
			1点	0
			2点	0
			3点	0
			4点	0

2. 意見展開問題「構成」

- 構成において全て一致。

構成	0	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。
	1	文と文とのつながりが悪かったり、言いたいことがうまくまとまっていなかったりするため、読み手が混乱して伝えたい内容を理解できないところが多くある。
	2	文と文とのつながりがよくなかったり、言いたいことがうまくまとまっていなかったりするため、読み手が混乱して考えが十分に伝わらないところが部分的にある。
	3	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れもほぼ自然で、十分に考えを伝えることができている。
	4	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れが自然で一貫しており、考えを明確に伝えることができている。

正しい素点	生徒数	実際の採点による素点	生徒数	
0点	26	人	0点	26
			1点	0
			2点	0
			3点	0
			4点	0
1点	29	人	0点	0
			1点	29
			2点	0
			3点	0
			4点	0
2点	42	人	0点	0
			1点	0
			2点	42
			3点	0
			4点	0
3点	3	人	0点	0
			1点	0
			2点	0
			3点	3
			4点	0
4点	0	人	0点	0
			1点	0
			2点	0
			3点	0
			4点	0

<考察>

- 内容の観点では、得点と見なす記述の評価ができず一致しないケースがあった。
- 表現・構成の観点では全て一致し、答案を適切に評価できていた。

5. H28年度「書くこと」検収総括と提案

■ どの観点で一致しない採点が起こりやすいのか

「書くこと」では、どの問題、採点観点においても一致しなかった採点はほぼ見られなかった。特に、意見展開問題での表現・構成の観点では全て一致していた。

■ 一致しなかった答案例

一致しなかったケースの原因としては、得点と見なす記述の評価ができず、本来「1」がつくべきところを「0」と採点していた点にあった。また、受験者の意図をくみ取りすぎて、意図が読み取れない英語にも「内容」の点数を与えてしまっているものが見られた。

■ 検収総括と今後に向けての提案

・本調査においては、問題決定から調査実施までの期間が僅か2ヶ月程度であった。更に正確な採点を目指すためには、実施までに十分な時間を取り、受験者の解答パターンを十分に想定し、採点者のトレーニングをより充実させる必要がある。

・今回の検収では、採点拠点と検収を行った受託者との間において採点結果の一致しなかったケースはほぼ見られなかった。要因としては、採点者及び採点監督者への事前研修が機能したことと考えられる。

・事前研修では、まず、検収チームから採点拠点の採点監督者に対して該当実施回の問題について採点基準の説明を行う。その後、採点監督者から採点者へ同様の研修を行う。ここで、検収チームと採点者との採点基準理解の一致を目指し、採点者間の採点基準の理解のずれを是正する。

・次に、事前テストで得たサンプル答案を用いたトライアル採点を実施している。このトライアル採点の品質検証時には、採点者の基準や出題している問題への理解の深化を目的として、検収チームと一致しなかった答案についてフィードバックを行っている。

・その後、同じ流れで2回目の研修を実施するという工程をとっているが、その一連の研修を行うことで、誤りの少ない採点を実現することができた。

・今後もより高い品質を担保していくため、採点者へ継続的な研修を行い、採点者のスキルを上げていくことが重要である。特に採点者のスキルのばらつきが生じないように、更なるスキルの向上方策について、今回の結果を踏まえて検討していく必要がある。

・今回、採点結果を無作為に抽出して検収を行うことで、採点者のスキルと現状の研修工程が正しく機能しているということを確認することができた。今後も継続的に採点者への研修・フィードバックを行っていくことで、より品質を高める採点体制構築が必要である。

(4)「話すこと」の調査に係る実施運営調査結果 報告

1. 実施運営調査の概要

■実施運営調査の方法

本調査にあたっては、対象校 579 校のうち、実施人数が 40 人までの学校を 1 学級（以降、「1 学級実施校」とする）、41 人以上を複数学級（以降「複数学級実施校」とする）として区分し、それぞれの調査の結果、実施運営上どのような違いや課題がみられるか、また課題に対して今後どのような改善策をとることができるかを明らかにする観点から、

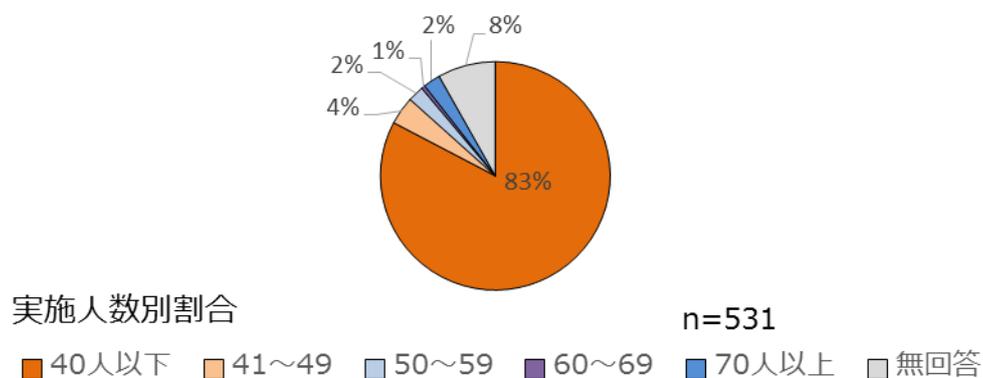
(1)全対象校に対して行った「学校質問紙調査」において、そのうち実施運営に関する質問の回答を集計・分析。

(2)学校へのヒアリング調査（今後の検討の参考とするため、対象校のうち、複数学級校を中心に訪問）を実施。

両者の結果から今後の実施に向けてどのような取組が必要であるかを提示する。

■「学校質問紙調査」実施運営に関する回答の定量分析

対象校 579 校に対して行った「学校質問紙調査」のうち実施運営に関する質問の回答結果を集計し、分析を行った。「話すこと」の調査を実施した生徒数の割合は以下のとおりである。



集計・分析の対象とできる学校は、実施人数を尋ねる質問に無回答だった 47 校と、「話すこと」の調査が未実施となった 1 校を除いて、全体の 92%にあたる 531 校であった。

そのうち、1学級実施校は全体の83%にあたる478校、複数学級実施校は全体の9%にあたる53校となる。

<実施運営調査対象校数内訳>

英語力調査事業実施校数	579
「話すこと」の調査未実施校数	1
「学校質問紙調査」無回答校数	47
実施運営調査対象校数	531

<1学級実施校・複数学級実施校数内訳>

1学級実施校（実施人数40人まで）	478
複数学級実施校（実施人数41人以上）	53
実施運営調査対象校数	531

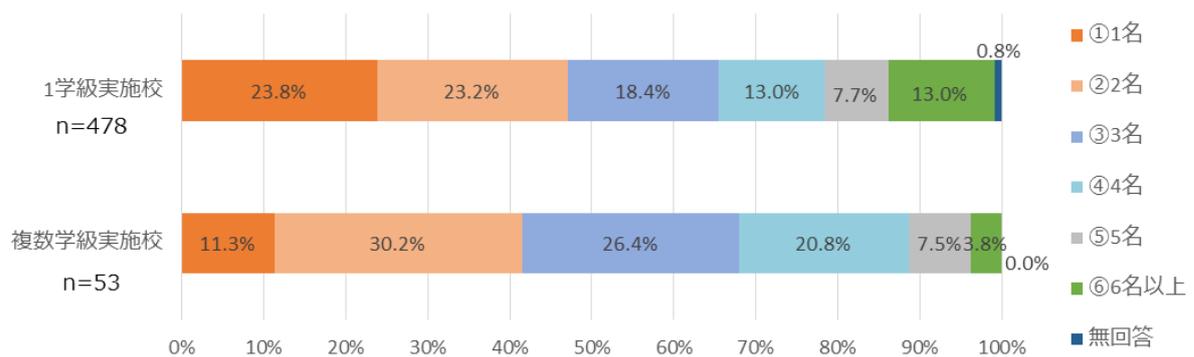
2. 学校質問紙の集計

問 「話すこと」の調査の実施にあたった試験官の人数を教えてください。

また、複数日で実施した学校の場合は、延べ人数も教えてください。

- 1学級実施校において、実施にあたった試験官の人数が1、2名と回答した学校は47.0%、3、4名が31.4%、5名以上は20.7%であった。
- 複数学級実施校において、実施にあたった試験官の人数が1、2名と回答した学校は41.5%、3、4名が47.2%、5名以上は11.3%であった。
- 試験官の人数は、実施学級数によって差が生じることがわかる。実施学級数に関わらず、40%以上の学校が1、2名の試験官で実施している。

<実施にあたった試験官の人数>



<複数日で実施した場合の延べ人数>



問 「話すこと」の調査で試験官を担当した教員の属性及び人数を教えてください。

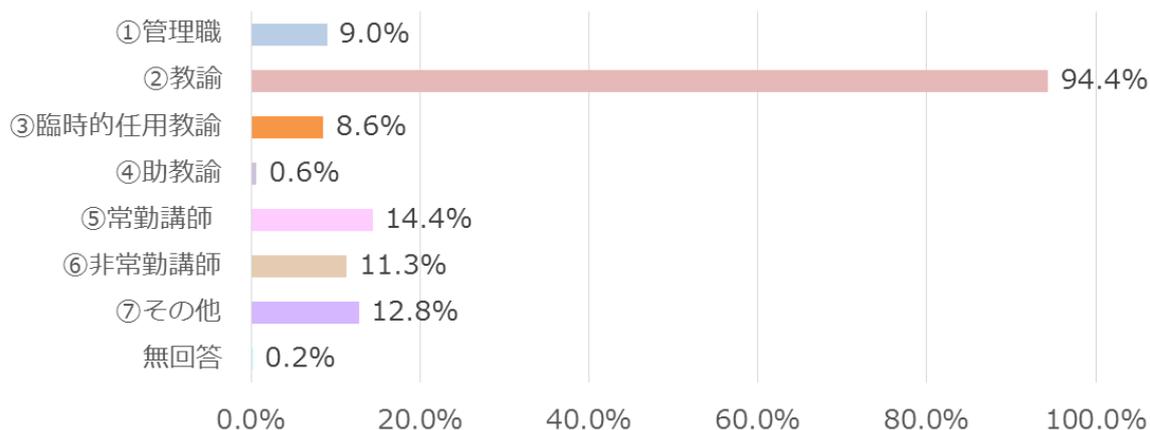
- ①管理職 ②教諭 ③臨時的任用教諭 ④助教諭 ⑤常勤講師 ⑥非常勤講師
⑦その他

- 実施学級数に関わらず、試験官を担当した教員の属性を「①管理職」「②教諭」と回答した学校が大多数である一方、「③臨時的任用教諭」「④助教諭」「⑤常勤講師」「⑥非常勤講師」との回答が約35%を占めた。

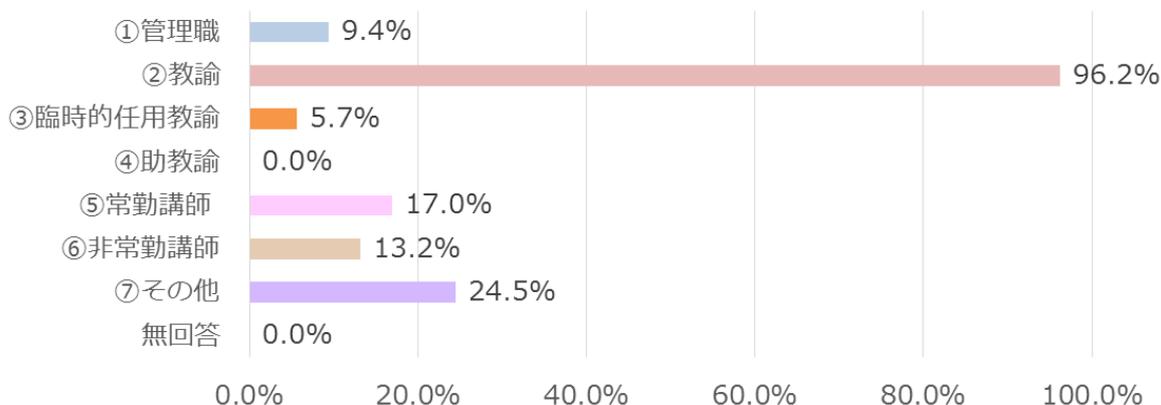
(補足) 本質問紙調査では、「⑦その他」の内訳を尋ねる質問は設定していない。

<試験官を担当した教員の属性>

1 学級実施校 ※複数回答あり n=478



複数学級実施校 ※複数回答あり n=53

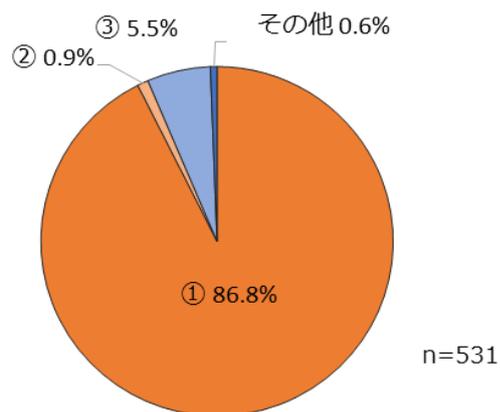


問 「話すこと」の調査の実施にあたり試験官は、自校の教員のみで担当しましたか。それとも、他校の教員の協力を得ましたか。

①自校の教員のみで対応をした ②他校の教員の協力を得て対応をした ③その他

- 「①自校の教員のみで対応をした」と回答した学校は、実施学級数に関わらず全体の86.8%であった。「②他校の教員の協力を得て対応をした」「③その他」の回答は6.4%にのぼった。
- 「③その他」の内訳としては、ALT、教育委員会指導主事に協力を得た、といった回答がみられた。

(補足) 複数回答をした学校は「③その他」として区分する。



問 「話すこと」の調査で試験官以外に関わった教員がいた場合は、その教員数を教えてください。(教室の監督、動線の管理など)

- 「無回答」を除き、1学級実施校において試験官以外に関わった教員数として最多だったのは「0名」の26.8%、次いで多かったのが「1名」の16.3%であった。
- 「無回答」を除き、複数学級実施校において試験官以外に関わった教員数として最多だったのは「0名」の22.6%、次いで多かったのが「1名」の15.1%であった。
- 実施学級数に関わらず、教員数「1、2名」と回答した学校の割合は約26%となり、「0名」と回答した学校の割合とほぼ同率であった。

(補足) ここではあえて、「無回答」と「0名」の回答とは分けて集計している。

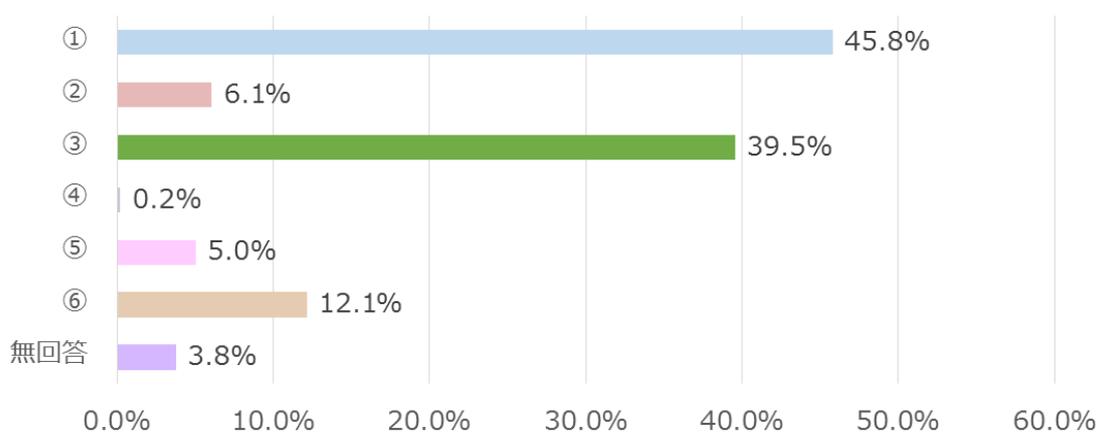


問 「話すこと」の調査はどの時間枠で実施しましたか。

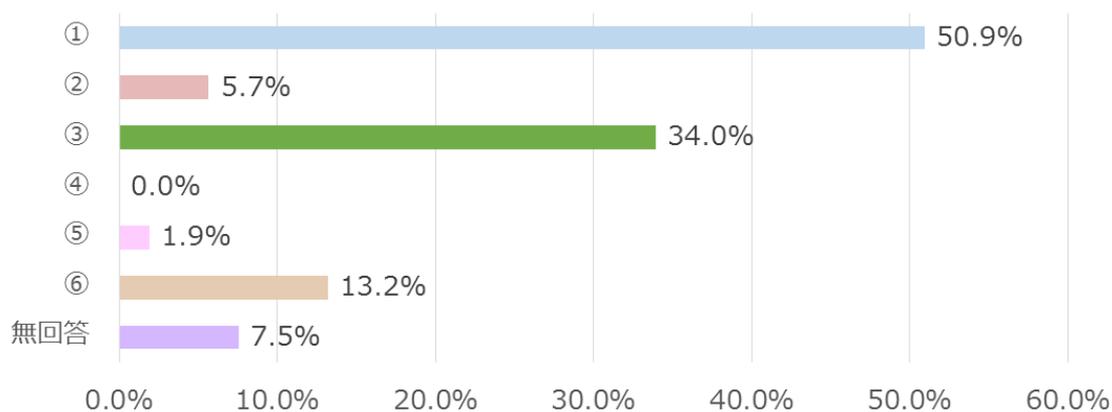
- ①外国語の授業時間 ②特別活動の時間 ③放課後 ④土曜日 ⑤夏季休暇中
⑥その他

- 「①外国語の授業時間」以外の実施時間枠としては、「③放課後」と回答した学校がもっとも多く、1学級実施校で39.5%、複数学級実施校で34.0%を占めた。
- 次いで回答の多かった「⑥その他」の内訳としては、「昼休み」などがみられた。

1学級実施校 ※複数回答あり n=478



複数学級実施校 ※複数回答あり n=53

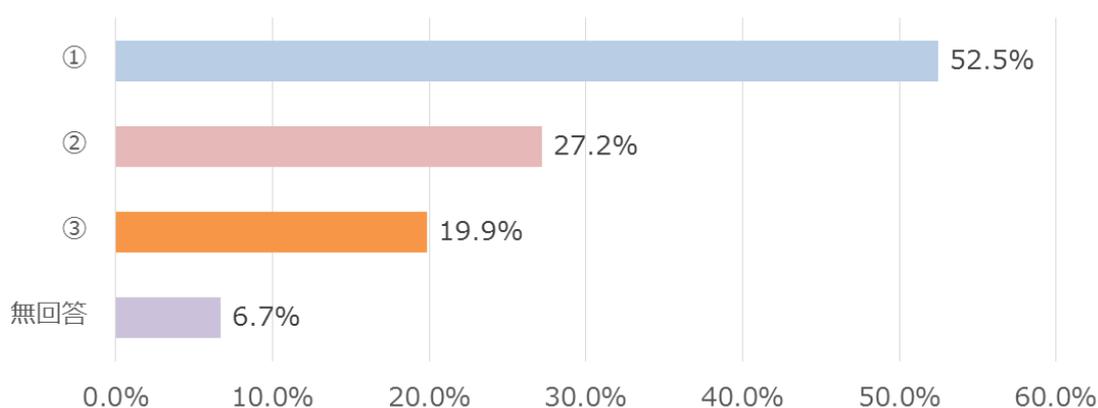


問 「話すこと」の調査を実施していない生徒をどのように待機させていましたか。

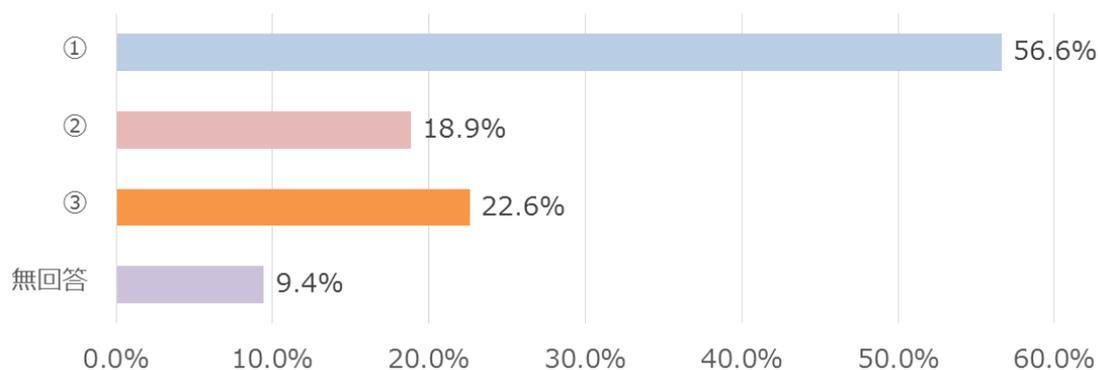
①自習を行わせていた ②（放課後に実施したため）帰宅させていた ③その他

- 実施学級数に関わらず、放課後に実施した学校がいずれも 30%台であったため、調査を実施していない生徒については、「②（放課後に実施したため）帰宅させていた」と回答した学校が、1学級実施校で 27.2%、複数学級実施校で 18.9%を占めた。
- 「③その他」では、「授業」や「部活動（放課後）」といった回答がみられた。これらの時間内での実施は、待機する生徒を発生させない工夫をしていたというよりは、外国語授業内での実施が困難であったためだと考えられる。

1学級実施校 ※複数回答あり n=478



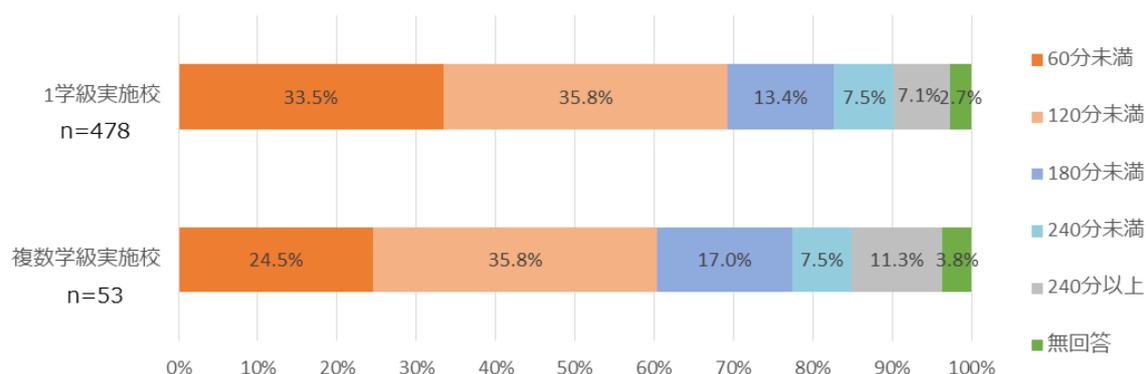
複数学級実施校 ※複数回答あり n=53



問 「話すこと」の調査を行うにあたり、教員間での事前の打ち合わせから当日生徒を入室させるまでの、準備にかかったおおよその時間を教えてください。

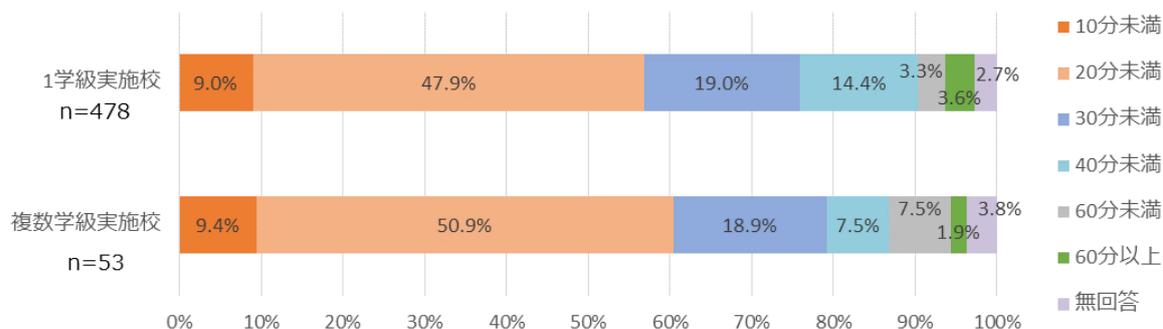
①実施に向けての検討時間（時間割、動線や実施場所のフロー設計、左記の検討会議など）

- 1学級実施校において、準備時間が60分未満と回答した学校は33.5%、60分以上120分未満が35.8%の合計69.3%であった。
- 複数学級実施校において、準備時間が60分未満と回答した学校は24.5%、60分以上120分未満が35.8%の合計60.3%であった。
- 1学級での実施の場合、関わる先生が少ない分、準備時間がかかる傾向はあるが、実施学級数に関わらず、いずれも60%以上の学校が120分未満で準備を終えていることがわかる。



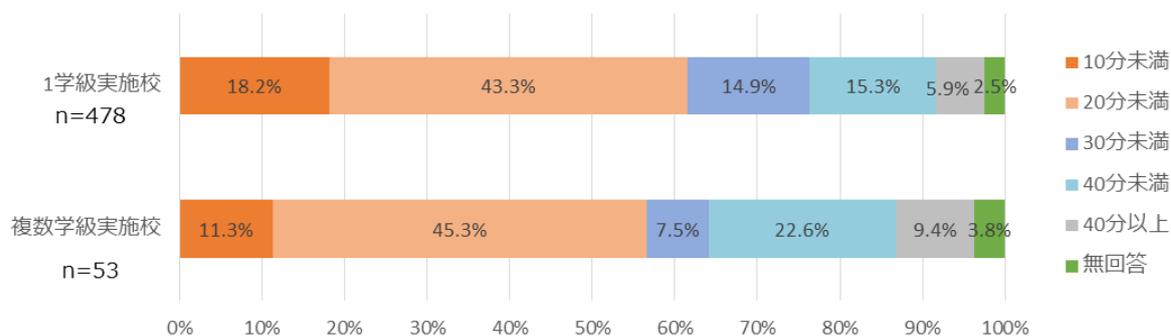
②生徒への事前説明時間

- 実施学級数によって大きな差は見られず、いずれも約 60%の学校が、20 分未満で準備を終えていることがわかる。



③実施教室の設営時間（室内の設備の移動、動線上の案内など）

- 1 学級実施校において、準備時間が 10 分未満と回答した学校は 18.2%、10 分以上 20 分未満が 43.3%の合計 61.5%であった。
- 複数学級実施校において、準備時間が 10 分未満と回答した学校は 11.3%、10 分以上 20 分未満が 45.3%の合計 56.6%であった。
- 全体の半数以上の学校が 20 分未満で準備を終えていることがわかる。



3. 実施運営ヒアリング調査結果

■複数学級実施校概要

対象学校数	5校
学級数と人数	①2学級78人 ②3学級101人 ③3学級104人 ④3学級115人 ⑤5学級177人
試験官の人数（平均）	約5人
事前準備時間（平均）	約176分
実施日数（平均）	約2.8日

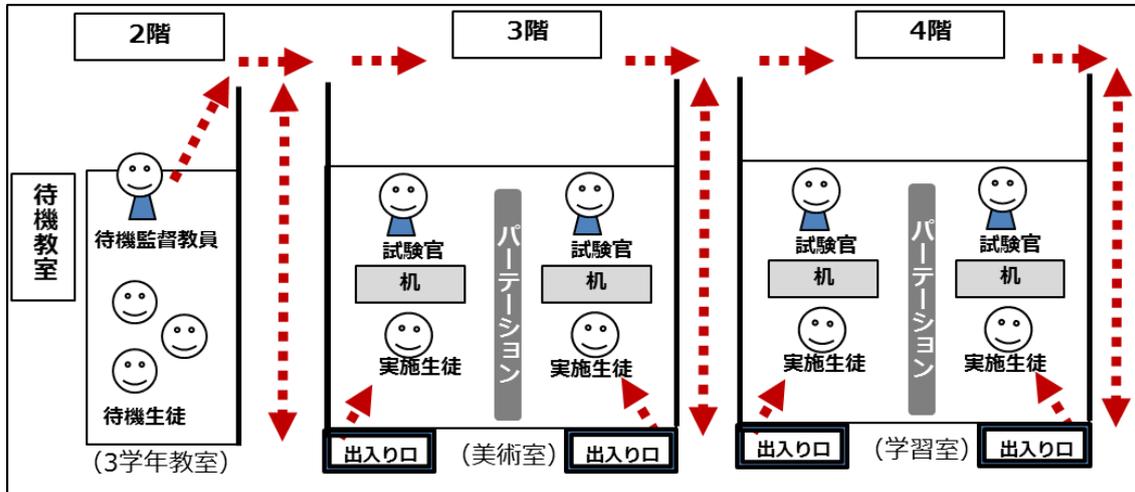
■実施運営における工夫点

- ・1日で実施を終えた学校においては、複数の実施教室を使用し、試験官複数名と連携先の高等学校の外国語教員、教育委員会の教員の協力を得ていた。2日にわたって実施をした学校においては、学年間で協力し時間割を組み換えていた。
- ・実施に際して、試験官以外の業務（待機監督教員役など）については、外国語教員のみならず、校内の教員間で役割を分担していた。
- ・生徒には、あらかじめ何時にどの実施教室に行くか書面で指示を行い、円滑に実施できるようにしていた。
- ・定期試験のように成績や高校入試に影響があるものではない旨を説明することで、生徒に問題を漏洩させないよう働きかけていた。

■実施時の動線

生徒を10分刻みで誘導し、時間になったら実施教室へ向かわせるようにしていた。その際、一つの実施教室をパーテーションで区切り、同時に2名実施できるようにしていた。

【一実施教室あたりに一つのパーテーションを設け、1回で実施できる生徒を増やし、効率化を図った動線の例】



■ 1 学級実施校概要

対象学校数	2校
学級数と人数	①1学級40人 ②1学級35人
試験官の人数（平均）	約3.5人
事前準備時間（平均）	約195分
実施日数（平均）	約1日

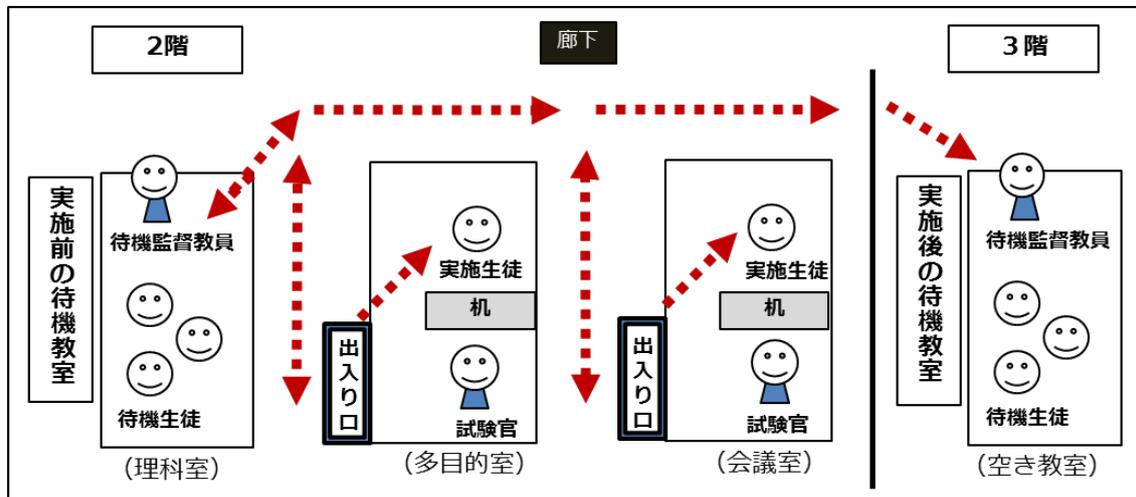
■ 実施運営における工夫点

- 問題の情報管理の観点から、1日で試験実施が完了するように体制を整えていた。
- 実施を1日で完了させるために、実施する教室を複数用意し、複数の試験官が同時に実施できるように調整していた。
- 自校の教員だけでは試験官が足りなかったため、教育委員会が主体となって試験官（英語担当指導主事等）を派遣していた。
- 実施に際して、試験官以外の業務（生徒が待機する間に監督をする教員など）については、外国語教員のみならず、校内の教員間で役割を分担していた。

■ 実施時の動線

問題漏洩を防ぐために、実施前の生徒と実施後の生徒が顔をあわせないように、待機・実施する教室と実施後に使用する教室を異なる階に設けていた。

【待機教室と実施教室、実施後の教室を異なる階に設けて問題漏洩防止に配慮した動線の例】



4. 「話すこと」実施運営調査のまとめ

■実施運営ヒアリング調査の総括

- 実施に当たっては、学級数にかかわらず時間を確保するために様々な工夫がみられた。複数日にわたって実施するため、多くの学校において実施期間を短縮させるための取り組みが行われていた。
- 例えば、①同時に複数名の生徒を実施、②実施教室を複数用意して実施、③試験官を複数名確保して実施すること等が行われていた。
- 原則として、採点を行う試験官は、英語担当教員が担うこととしていたため、自校の教員で人員が不足する場合は、教育委員会や連携校である高校に応援を要請した学校もみられた。
- 円滑な実施に向けては、外国語教員のみならず、英語担当教員以外の教職員による協力体制の構築も重要であった。特に複数学級で実施する場合は、実施教室と待機場所の間において問題が漏洩することのないよう、待機教室や廊下での巡視役や設営等の事前準備を補助する教員が必要であった。

■「学校質問紙調査」実施運営に関する回答の総括

学校質問紙調査の集計結果からは、1学級で実施するか、複数学級で実施するかによって大きな差異がみられることはなかった。特に実施にあたった試験官の人数や試験官以外に関わった教員数、また事前準備にかかる時間に集計結果上大きな差がみられなかったことは、「話すこと」の調査実施にあたってこれ以上人員を配置できないこと等が理由として考えられるが、この点について、今後に向けた実施運営方法の検討時に留意される必要がある。

■今後に向けて

学校における実施運営体制・運営については、実施に係る負担を軽減するために考慮すべき点がある。

- 実施体制の整備・運営を効率的に行うため、対面による試験の具体的体制のイメージや、人員配置、動線などを具体的に示したマニュアルが必要である。

- 実施日が複数日に渡った際に、問題が漏洩しないようにするための方策についても考慮が必要である。通信の発達もあり、SNS 等を利用して情報拡散が容易となっているため、複数日にわたって実施する際は、問題の漏洩等に対応するため、複数の調査問題を用意するなど、実施上の工夫点を検討する必要がある。
- 今後の実施に向けて、校内で、調査実施に必要な教員数を確保していく方策について具体的な検討を重ねていく必要がある。英語担当教員以外の教員の協力を得るためには、本事業の目的、実施運営の全体像の理解を得られるようにするための簡潔な資料を用意する必要がある。

本事業の目的とゴールについて理解を深め、調査を行うことによって、学校が「話すこと」に対する取り組みを改善・充実につなげていく必要がある。

